



今回は、スーパーグローバル大学（SGU）への進学に関する報告です。

◇ スーパーグローバル大学（SGU）とは何か

一昨年、文科省は日本の国際競争力向上を目標に、スーパーグローバル大学(SGU)を指定しました。選ばれた大学は、世界レベルの教育研究を行うトップ型13校、日本のグローバル化を先導する牽引型24校の計37校です。SGH関高は、SGUと連携しグローバル人材育成に努めます。そして生徒の希望するSGUへの進学率向上をめざします。

文科省指定スーパーグローバル大学に選ばれた大学37校

トップ型（4億2千万円補助）

北海道大、東北大、筑波大、東京大、東京医科歯科大、東京工業大、名古屋大、京都大、大阪大、広島大、九州大、慶応義塾大、早稲田大

グローバル化牽引型（1億7千万円補助）

千葉大、東京外国語大、東京芸術大、長岡技術科学大、金沢大、豊橋技術科学大、京都工芸繊維大、奈良先端科学技術大学院大、岡山大、熊本大、国際教養大、会津大、国際基督教大、芝浦工業大、上智大、東洋大、法政大、明治大、立教大、創価大、国際大、立命館大、関西学院大、立命館アジア太平洋大

◇ 2016年度 SGUとのおもな連携事業

・金沢大オープンキャンパス・イン・関高

金沢大学の先生9名が関高校に来校。3年生全員が各人の関心に合わせて様々な講座を受講しました。大学での研究や学問について、じっくりとお話をうかがいました。今年度で2回目の連携事業です。

・先端科学リサーチツアー 東大、早大、名大

東大先端研、早稲田ツインズ、名大工学部を訪問し、講義や施設見学、実験など、有意義な時間を過ごしました。学問の最前線でどんなことが起きているのか。学問は実社会にどれほど貢献できるのか。今年度で3回目、毎回、胸躍るお話をうかがっています。

・霊長類学現地実習 京大

京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院と連携した特別プログラム。今年度で2年目を迎えます。さらにフィールドワークを進めた一部生徒が、研究成果を学会で発表しました。

・礼文島国際フィールドスクール 北大、東大、慶応大

毎年夏に北海道礼文島で行われる国際学術調査。今年で3回目を迎えました。考古学、動物学、分子生物学、環境科学、文献史学、文化人類学など、様々な研究分野、様々な国籍の研究者が集まる中、関高生も調査に参加しました。一部生徒は、研究成果を学会で発表しました。



金沢大・松田洋介先生（上写真）
東京大・御厨貴先生（下写真）

◇ 今年度のSGUへの進学実績

スーパーグローバルハイスクール事業の開始により、関高生の進学・キャリア意識が大きく変わろうとしています。模試の偏差値や難易度だけではなく、自身のキャリアプランに合わせ、「学びたい学問」「就きたい職業」を軸に学部学科選びをする生徒が確実に増えています。

変化の具体的なあらわれのひとつとして、質の高い人材育成や研究を行っているスーパーグローバル大学への関心の高さ、進学希望者の増加があげられます。2017年度入試のSGU合格状況は以下の通りです。

トップ型 26名合格（昨年度21名）

北海道大1、筑波大1、東京大1、名古屋大10、京都大1、大阪大3
広島大2、九州大1、慶応義塾大1、早稲田大5

グローバル化牽引型 98名合格（昨年度73名）

千葉大6、東京外国語大2、金沢大14、芝浦工業大3、法政大5
明治大7、創価大2、立命館大57、関西学院大2

トップ型、グローバル化牽引型ともに、前年度と比べ大幅に増加しています。顕著な傾向として、千葉大学(0名→6名)と金沢大学(6名→14名)の増加を指摘できます。後者に関しては、3年生対象の「金沢大学オープンキャンパス・イン・関高」の反響が考えられます。生徒自身が書いた振り返りの感想レポートでも、「将来の研究、学部学科選びの参考になった」「金沢大学に行きたくなった」など、肯定的な感想が多く寄せられました。

また今年度は、SGH活動で受けた知的刺激や活動歴が、合格への道しるべとなった事例も多く見られます。礼文島国際共同調査と考古学協会学会発表(北大・京大・九大・早大)、霊長類研究と学会発表(北大・名大・広大)、十八歳選挙権研究とワールドカフェ(名大・慶応大)、課題研究英語プレゼン(関西学院大)など、SGH活動で活躍した生徒たちが、大学入試でも好成績を挙げる事例が複数見られました。

◇ SGH第2ステージ ～関高校の新たな伝統として～

2014年度から始まったスーパーグローバルハイスクール事業は、今年度3年目の区切りを迎え、第1期生を卒業生として送り出しました。SGH事業の真価が問われるのは、第1期生が社会人として活躍期を迎える10年後、20年後のことかも知れませんが、国公立大推薦・AO入試の成果、SGUへの進学者増加にみられるとおり、直近の大学受験にも、確かな効果があらわれはじめています。

活気ある部活動や学校行事。質の高い教育をめざす授業改善。キャリア教育を根本にすえた骨太の進路指導。いよいよ第2ステージを迎えるSGH活動。こうした様々な事業を全面展開で駆動させつつ、関高校は4年後の2021年に百周年を迎えることになります。

百周年という重要な節目を迎えるにあたって、関高校は、地域において高等学校が果たすべき役割を深く認識し、「世界や地域の課題解決に貢献する関高校」の創造に向けて、基本理念と中長期目標を踏まえた学校改革を進めていきます。

Next Century を見すえた関高校の未来戦略。もちろんその中核はSGH事業です。

